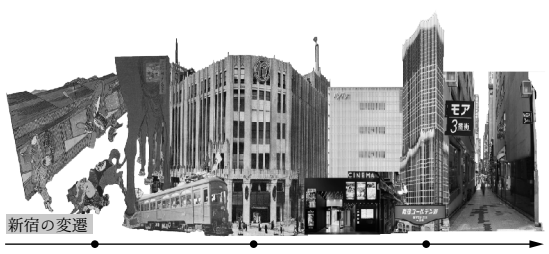
触覚の解放 - 風塔を介して新宿に馴染む -

Omote ラウンジ（大きく開いた空間は新宿の人々を緩やかに引き込む）

Chaos ラウンジ（風塔からの空気によって新宿独特の雰囲気を創り出す）

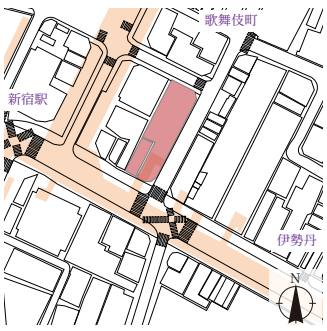
Ura ラウンジ（風塔と小スケールのガラス筒は混在した新宿界隈を象徴する）

01. 滞留空間の欠如



新宿三丁目はかつて宿場町（人馬の休憩所）として発展を遂げた歴史を持つ。時代を経て、映画館・劇場・カフェ等が集う繁華街として賑わうようになったが、現在は歌舞伎町やゴールデン街への「通り道」と化した。このことから、本来新宿三丁目が獲得していた滞留空間が欠落し、行き先を既に決めた人々で溢れた場が構築された。

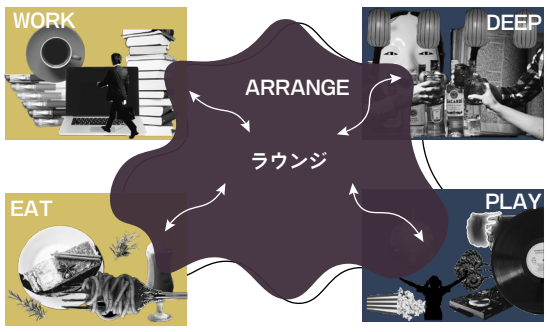
02. 界隈の交わる街



本敷地は大通りと新宿駅と東新宿を接続する地下道に接続しており、地上では文壇バーやクラブ、純喫茶、市役所など様々な「界隈」へと人々が行き交う結節点である。

滞留空間が存在しないため、午前と午後の利用者属性が異なる二面性（午前：大空間が拓かれた街、午後：小空間が点在した街）がある。これは、新宿に初めて訪れる方にとっては敷居が高いと言える。

03. 新宿に馴染む



多様な界隈に接続している本敷地は、いわば新宿の準備拠点。本来はラウンジ（※待合室・休憩室）のような機能が求められている。そこで、新規参入する人々に拓いた「新宿に馴染むためのドレスアップ建築」を提案する。

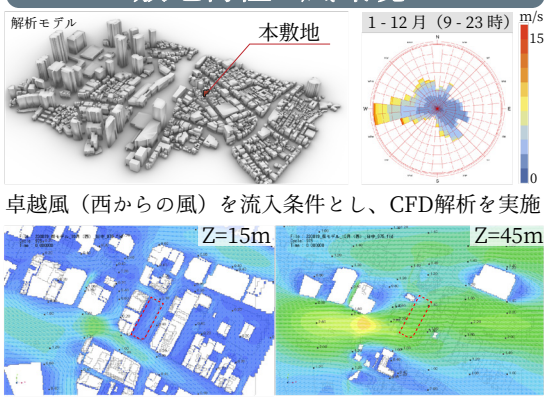
04. 日常↔ラウンジ↔界隈

新宿に流れる時間の移ろいを肌に馴染ませながらゆったりとした時間を過ごせるこの複合商業施設では、日常（表）から界隈（裏）へ、界隈から日常への行き来をする。

05. 触覚機能の解放

近年の建築は機械設備の技術革新から快適性に柔軟性が付与された。建築が重ね着する時代である。ただ、これは人間の「触覚」を鈍らせ、建築の魅力さえも閉じてしまう。つまり、新宿由来の風・光が織りなす触覚ベースの空間を“重ね着”することで、人々と建築は新宿に溶け込み、更なるドレスアップを遂げる。

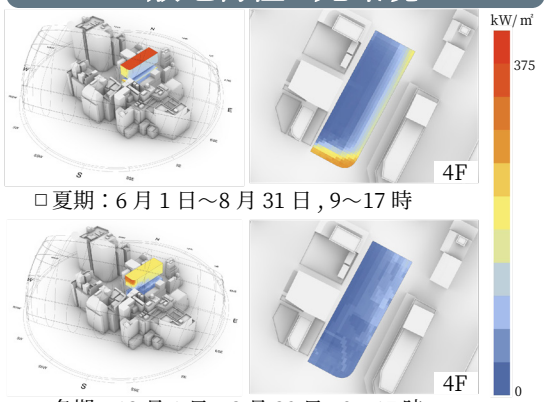
06 - I. 敷地特性 - 風環境 -



卓越風（西からの風）を流入条件とし、CFD解析を実施

本敷地の 4F 付近に流れる風は非常に小さい。一方で、屋上階付近は比較的強い風が流れている。

06 -Ⅱ. 敷地特性 - 光環境 -



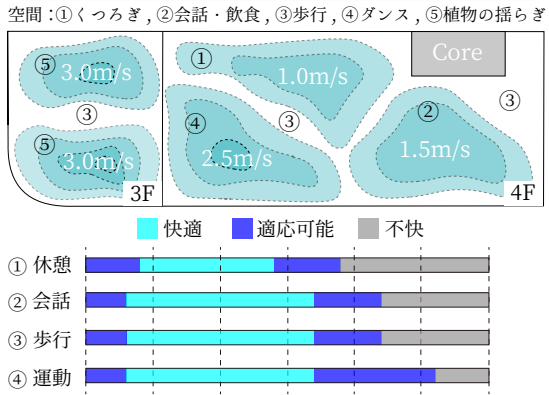
□夏期：6 月 1 日～8 月 31 日 , 9～17 時

□冬期：12 月 1 日～2 月 28 日 , 9～17 時

本敷地は周辺建物が高く、4F に日射が届かない。一方、南面壁の上階は日射を確保できるポテンシャルを持つ。

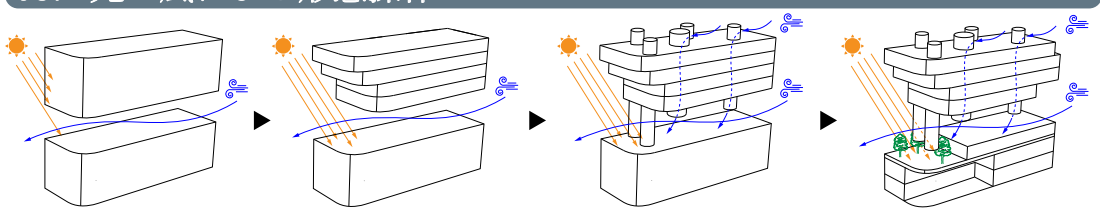
07. Chaos ラウンジの触覚体験

空間：①くつろぎ , ②会話・飲食 , ③歩行 , ④ダンス , ⑤植物の揺らぎ



人間の適応可能・快適な風速域※1 をデザインし、新宿の風が織りなす触覚体験を目指す。

08. 光・風による形態操作



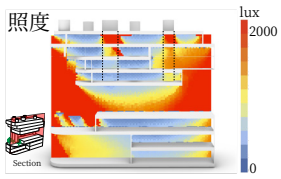
ファサード：形態に物性値※2 を与えた後、grasshopper を用いて日射量が増加する形態を 2,315 パターンから抽出

風塔　　：2 種類（半径 1,800mm, 2,600mm）のガラス風塔を設て、3・4F に新宿の風を送り込む

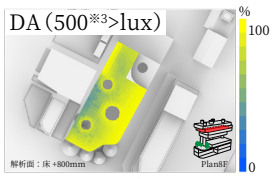
09. 光解析結果

△期間：6 - 8 月 , 9～17 時
夏期は +47.9% 増加した。

日射量の増加に伴い、植栽追加（+13.6% 不快感緩和）

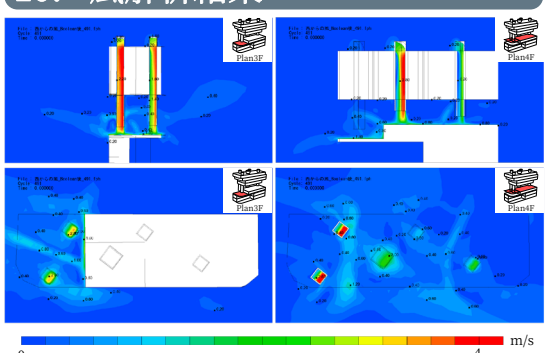


△期間：8 月 13 日 13 時
風塔が下層に光を届ける。



レストランの年間 9～17 時の照度結果（+9.2% 増加）

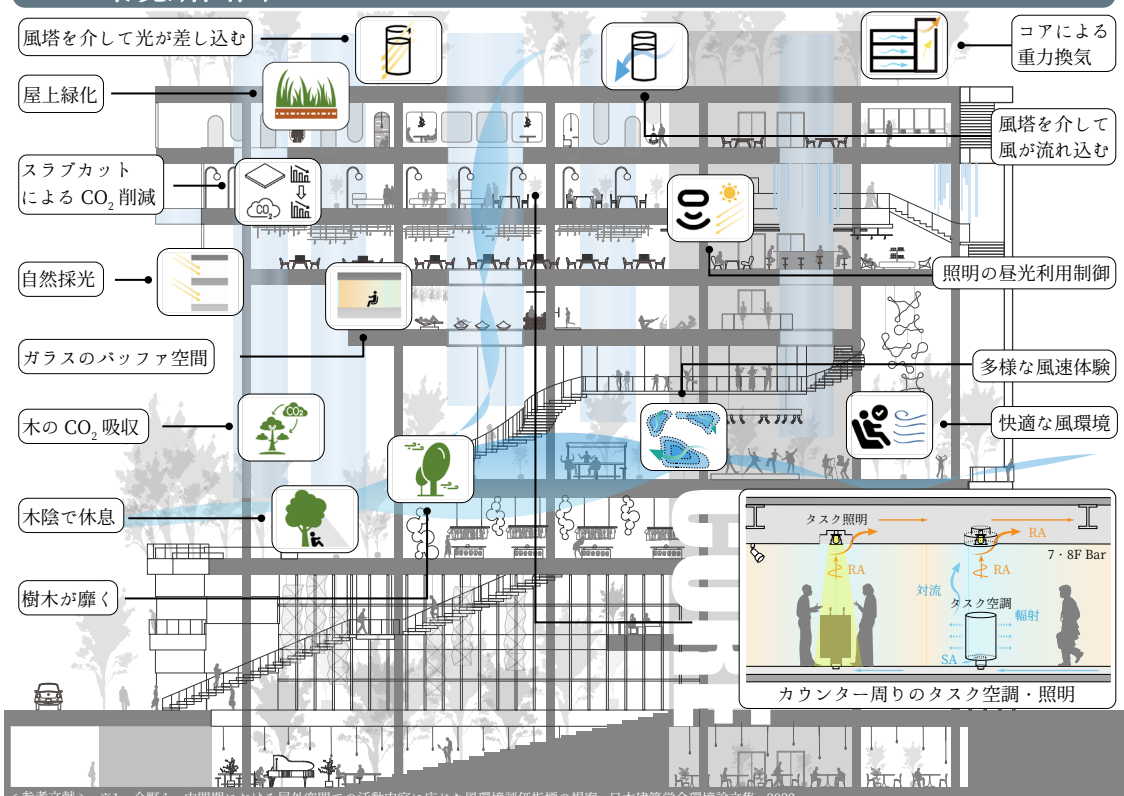
10. 風解析結果



□期間：10 月 1～30 日（※平均値を使用）

風塔を介して 3・4F に誘われた西側から吹く風は多様なアクティビティを体感させ、人々はドレスアップする。

11. 環境断面図



< 参考文献 >
※1　今野ら , 中間期における屋外空間での活動内容に応じた風環境評価指標の提案 , 日本建築学会環境論文集 , 2022
※2　Panasonic, 各種材料反射率 , ※3　建築研究所 , 基準一次エネルギー消費量の算定根拠（第三部）, p396

断面図 1/500